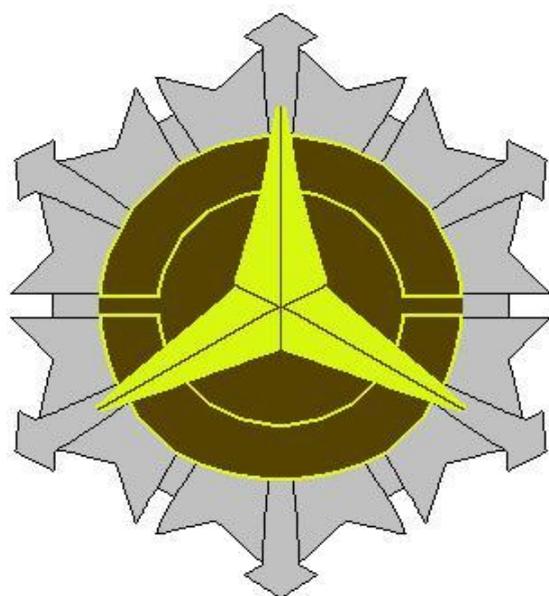


令和3年

消 防 年 報



立山町消防本部

目 次

立山町の概要	1
消防吏員徽章	2
立山町の消防分布図及び消防機械配置図	3
管内人口動態	4
消防のあゆみ	5～11
立山町消防組織図	12
消防施設の現況	13
消防職員の定数・実員及び配置状況	14
消防機械配置状況	15
消防車両一覧表	16
消防水利の現況	17
年別通報受信状況	18
防火対象物状況	19
危険物施設数	20
火災予防条例による届出状況	20
危険物製造所等倍数別・類別状況	21
火災概況	22
令和3年火災発生状況総括表	22
月別火災発生状況	23
過去10年間の地区別件数	23
過去10年間の火災発生状況	24
過去10年間の火災発生件数と損害額	24
救急概況	25
事故種別出動件数・搬送人員状況	25
月別・事故種別救急活動状況	26
時間別・事故種別救急活動状況	26
救助・捜索概況	27

立山町民憲章

霊峰立山に抱かれ、常願寺川の清流に育まれるわたくしたち立山町民はこの誇りあるふるさとを愛し、力を合わせて、良い町づくりに努めます。

1. 郷土を愛し 自然を守り 住みよい町づくりに努めます。
2. きまりを守り あいさつをかわし 明るい地域づくりに努めます。
3. 仕事に励み 奉仕の心で 豊かな社会づくりに努めます。
4. 健やかで 笑顔で語らい 楽しい家づくりに努めます。
5. 教養を高め 科学を重んじ 文化の町づくりに努めます。

は し が き

- この年報は、当消防本部における令和3年中の消防業務全般の状況を収録したものであり、今後の消防行政、施策の参考にするとともに、広く一般に紹介し、消防に対する理解を深めていただくことを目的として編集しました。

- この年報については、表の上部等にそれぞれ記載した期日をもって作成してあります。

令和4年4月

立山町消防本部

立山町の概要

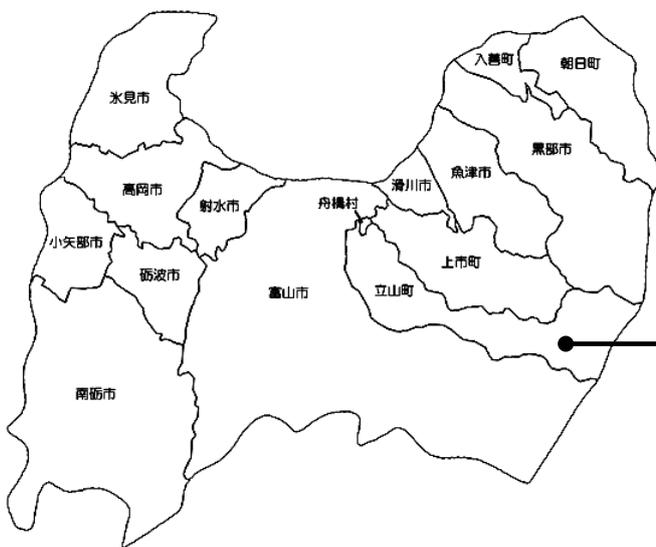
昭和29年1月10日、雄山町を中心に5ヶ村（利田、上段、東谷、釜ヶ淵、立山）が合併し霊峰立山の名にちなんで立山町と命名して発足し、同年7月10日、新川村の編入合併を経て今日にいたっている。

本町は、県都富山市から南東よりに位置し、北西部は、一級河川・常願寺川の扇状地であり水豊かな穀倉地帯である。これが、南東部へおよぶごとに標高が高まり特用林産物の生産地帯へと移行し、奥地は南北に連なる北アルプス立山連峰を形成している。

気候は、変化に富み、雨や雪が多く、湿度が高い。年間平均気温が14度前後で風向きは、温暖期で南・南西、寒冷期で北東の季節風が多い。

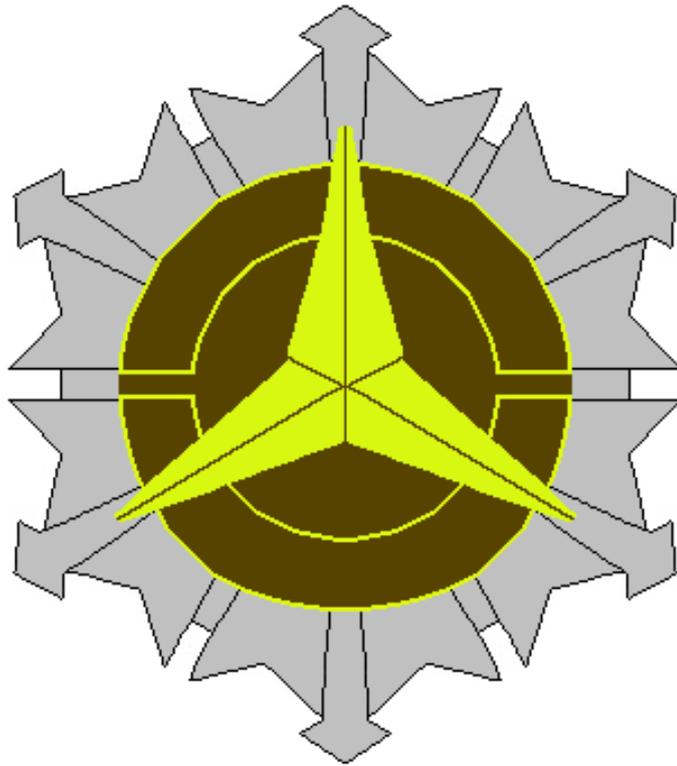
反面、四季の移り変わりが鮮やかなのが特色である。

「人・自然・絆を大切にし、守りながら、みんなが輝く共生のまちづくりに努めます。」を基本理念とし、「健やかなまち『健康・快適』たてやま、活力のまち『田園・交流』たてやま、学びのまち『教育・文化』たてやま」を将来像に掲げ、この実現に向けて積極的な施策展開を図っている。



- ・位置 東経 137° 17' ~ 137° 45'
北緯 36° 31' ~ 36° 42'
- ・面積 総面積 307.29 km²
- ・人口 25,084人
(男 12,102人・女 12,982人)
- ・世帯数 9,484世帯

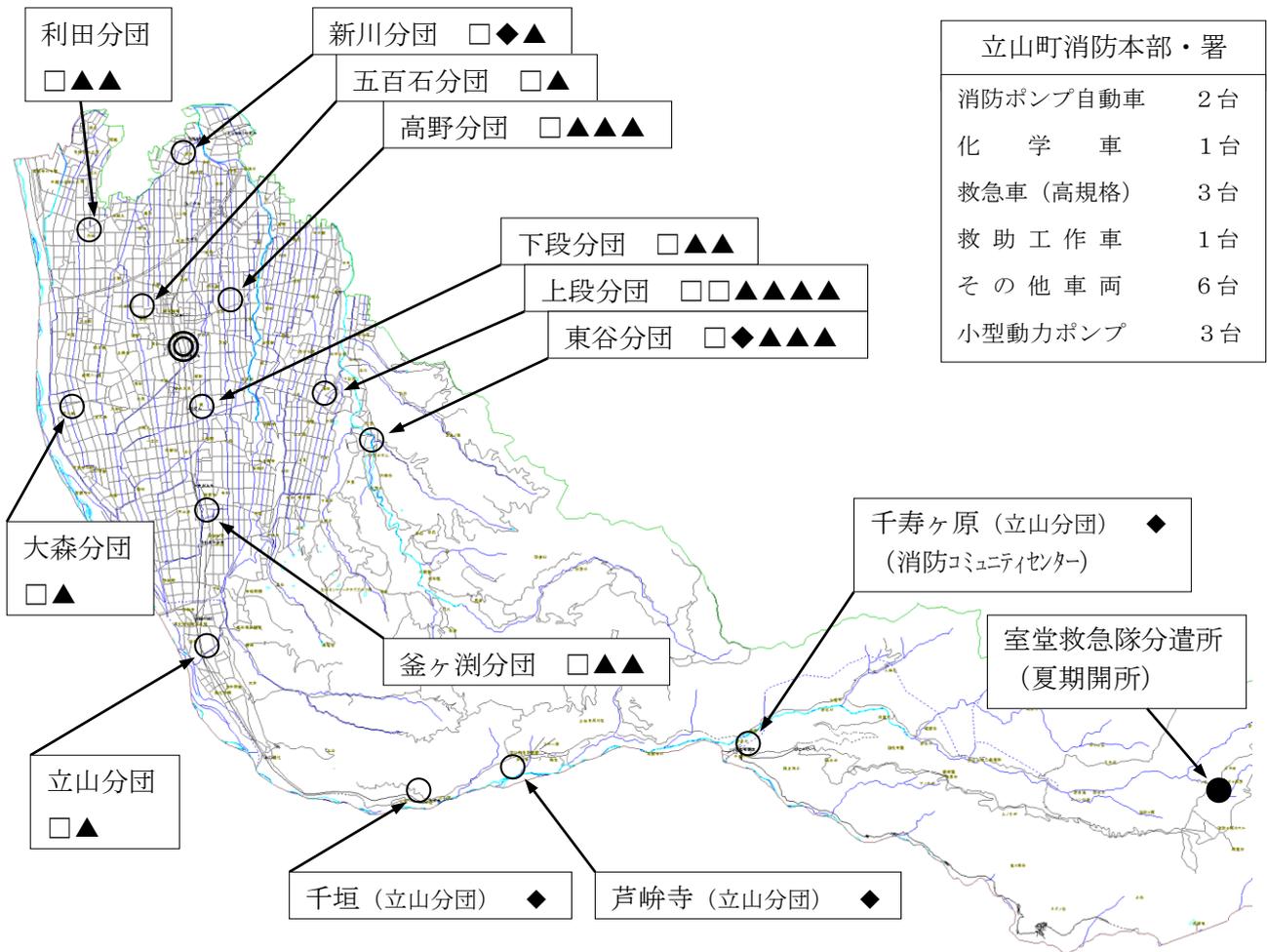
(令和4年3月1日現在)



消防吏員徽章

消防マークの中央に町章「立山」の文字を図案化したもので、外輪の丸は行政区域内の融和を意味し、立山の峰を表現する三角錘の合流点を頂点として三つの三角錘は野に山に町に力強く発展する町勢の姿を象徴している。

立山町の消防分布図及び消防機械配置図



- 記号の解説
- ◎ 消防本部・署
 - 分遣所
 - 分団詰所・団員詰所
 - 消防ポンプ自動車
 - ◆ 小型動力ポンプ付積載車
 - ▲ 小型動力ポンプ

◇管内人口動態

(令和3年12月31日現在)

区分 地区別	人 口			世 帯 数
	男	女	計	
五百石	2,541	2,760	5,301	2,029
高野	1,208	1,380	2,588	1,035
上段	678	744	1,422	569
東谷	184	215	399	173
立山	979	1,083	2,062	848
釜ヶ淵	791	891	1,682	651
下段	1,417	1,437	2,854	1,044
大森	1,251	1,345	2,596	883
利田	1,601	1,602	3,203	1,119
新川	1,489	1,586	3,075	1,157
合計	12,139	13,043	25,182	9,508

※ 参考(各年度国勢調査による)

年度別	男	女	計	世帯数
昭和40年	13,720	14,166	27,886	5,861
昭和50年	13,178	14,048	27,226	6,446
昭和60年	13,509	14,432	27,941	6,846
平成7年	13,132	14,312	27,444	7,762
平成12年	13,446	14,548	27,994	8,427
平成17年	13,422	14,589	28,011	8,830
平成22年	13,200	14,266	27,466	8,992
平成27年	12,663	13,654	26,317	9,159
令和2年	12,002	12,790	24,792	9,047

立山町消防のあゆみ

- 昭和 24年 12月 雄山町消防本部(署)を設置し、署員4名・車両1台で発足
25年 12月 職員1名増員(総員5名)
29年 1月 1町5ヶ村を合併し、立山町消防本部(署)設置。立山町消防団が9分団で発足
1月 初代消防団長 菅原徳三氏就任
7月 職員1名増員(総員6名)
7月 新川村を編入合併し10分団となる
8月 職員1名増員(総員7名)
31年 4月 職員1名増員(総員8名)
7月 立山町消防団を1団4分団に改編
12月 職員2名増員(総員10名)
12月 立山町消防署 東部、南部、北部分遣所を配置
12月 初代消防署長 住松 實氏就任
33年 8月 消防庁舎竣工(旧庁舎 立山町米沢7の2)
34年 4月 職員3名増員(総員13名)
12月 消防ポンプ自動車(BS-I型)を購入
37年 4月 職員1名増員(総員14名)
7月 日中柴山婦人消防隊結成
8月 第二代消防団長 高平公友氏就任
38年 2月 雪害対策活動中2名殉職(消防司令長 戸田 光氏、消防副団長 林 正明氏)
4月 第二代消防署長 塚本正生氏就任
9月 職員1名増員(総員15名)
12月 消防ポンプ自動車(BS-I型)を購入
40年 12月 南部分団立山班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
41年 2月 立山町・大山町消防相互応援協定を締結
42年 4月 指令車(日産 セドリック ワゴン)を購入し、これをもって救急業務を開始
43年 4月 第三代消防署長 信濃信義氏就任
12月 中部分団五百石班に消防ポンプ自動車(BD-II型)を配置
44年 3月 富山県市町村消防相互応援協定を締結
4月 職員2名増員(総員17名)
45年 1月 第四代消防署長 浜田清一氏就任
4月 職員2名増員(総員19名)
46年 3月 日本自動車工業会より救急車(トヨタ 2B型)が寄贈
3月 高原婦人消防隊結成
4月 職員1名増員(総員20名)
6月 政令により消防本部、消防署が設置された
7月 美女平分遣所を開設。県から救急車(トヨタ ランドクルーザー)が貸与され
立山アルペンルートの救急業務を開始
10月 職員1名増員(総員22名)
47年 4月 職員1名増員(総員23名)

昭和 48年 4月 舟橋村救急業務を受託
 6月 現消防庁舎落成(鉄筋コンクリート2階建一部4階 816.72㎡)立山町米沢36
 8月 白岩婦人消防隊結成
 10月 県下消防署消防操法大会で初優勝
 11月 千垣婦人消防隊結成
 1月 北部分団新川班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
 49年 6月 政令により救急業務の実施指定を受けた
 8月 東部分団上段班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
 10月 中部分団利田班に小型動力ポンプ積載車を配置
 50年 3月 殉職職団員13回忌追悼式を営む
 8月 東部分団東谷班に小型動力ポンプ積載車を配置
 8月 南部分団釜ヶ淵班に小型動力ポンプ積載車を配置
 8月 日本船舶振興会寄贈の小型動力ポンプ付積載車を中部分団大森班に配置
 51年 4月 消防団条例改正10名増の320名
 9月 中部分団高野班に小型動力ポンプ積載車を配置
 9月 中部分団下段班に小型動力ポンプ積載車を配置
 9月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(BD-I型)が寄贈され署に配備
 52年 2月 第五代消防署長 杉本圭介氏就任
 53年 11月 重化学車(日野 III型)を購入
 54年 3月 宮路婦人消防隊結成
 4月 職員2名増員(総員25名)
 11月 指令車(日産 グロリア ワゴン)を更新
 55年 3月 日本損害保険協会から救急車(トヨタ 2B型)が寄贈
 6月 立山町少年婦人防火委員会を設置
 11月 消防ポンプ自動車(CD-II型 署2号車)を購入
 12月 北陸自動車道開通により消防救急業務を開始
 12月 救急車(トヨタ 2B型)を購入
 56年 3月 芦峯寺婦人消防隊結成
 4月 職員2名増員(総員27名)
 4月 立山町消防団を1団10分団に改編
 4月 栃津婦人消防隊結成
 9月 消防庁舎車庫を増築(鉄骨造折板葺) 109.679㎡
 10月 消防救急指令装置(消防庁C型)と救急復信無線電話局を設置
 11月 南部分団遺所落成(鉄骨造平屋建) 143.52㎡
 57年 3月 立山地区スタンド協会から指令車(トヨタ コロナ バン)が寄贈
 10月 利田分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80.82㎡
 10月 東谷分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 79.92㎡
 58年 8月 日本船舶振興会より広報車(トヨタ)が寄贈された
 11月 防災行政無線電話装置を設置
 58年 12月 第三代消防団長 坂井昭二氏就任
 59年 2月 大森分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80.46㎡
 2月 立山分団の消防ポンプ自動車(CD-II型)を更新

昭和 59年 10月 初代消防長 杉本圭介氏就任
 10月 高野分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 82㎡
 11月 資器材搬送車を購入
 1月 下段分団詰所落成(鉄筋コンクリート平屋建。公民館と併設)80. 58㎡
 12月 防災行政無線・高速ファクシミリ設置
 60年 3月 殉職消防職団員23回忌追悼式を営む
 4月 第六代消防署長 村上賢二氏就任
 8月 日本消防協会から小型動力ポンプ積載車(日産)が寄贈され、芦峯詰所へ配置
 11月 上段分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 99. 63㎡
 11月 山之内製菓(株)から救急車(日産 2B型)が寄贈された
 61年 3月 消防庁舎通信指令室増築(鉄骨造平屋建) 7. 8㎡
 11月 新川分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 107. 81㎡
 12月 利田分団の小型動力ポンプ積載車(日産)を更新
 62年 4月 第二代消防長 村上賢二氏就任
 4月 立山町婦人消防隊連合会設立
 6月 日本防火協会から防火広報車(いすゞ ファーゴ)が寄贈された
 12月 水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を購入
 63年 12月 日本損害保険協会から救急車(いすゞ 2B型)が寄贈された
 平成 元年 4月 第七代消防署長 林 善暉氏就任
 7月 条例改正で消防団員定数を323名とする(3名増員)
 12月 救急車(トヨタ 2B型 4WD)を更新
 2年 4月 条例改正により消防職員定数27名(実員27名)となる
 5月 立山町消防団山岳救助協力隊発足
 8月 総合気象観測装置を設置
 3年 1月 高野分団の小型動力ポンプ積載車(日産)を更新
 2月 新川分団の消防ポンプ自動車 (CD-I型)を更新
 4月 条例改正により消防職員定数28名(実員28名)となる
 4月 第三代消防長 林 善暉氏就任
 7月 指令1号車 (トヨタ クラウン ワゴン)を更新
 9月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 (I-B型)寄贈
 10月 釜ヶ淵地区婦人消防隊結成
 10月 下段分団に消防ポンプ自動車(旧 署2号車)を配置
 10月 千垣地区、新瀬戸地区に小型動力ポンプ付積載車を配置
 12月 県防災行政無線を更新
 12月 上段分団の消防ポンプ自動車 (CD-I型)を更新
 4年 1月 高度情報通信ネットワークが完成
 4月 職員定数条例一部改正により消防職員定数29名(実員29名)となる
 10月 第8回全国婦人消防操法大会(横浜市)に、釜ヶ淵地区婦人消防隊が出場
 12月 立山分団芦峯詰所落成(鉄骨造一部2階建) 98. 85㎡
 12月 東谷分団に消防ポンプ自動車(CD-I型)を配置
 12月 釜ヶ淵分団に消防ポンプ自動車(CD-I型)を配置
 平成 5年 4月 第八代消防署長 坂井繁好氏就任
 4月 富山県防災情報システムを運用開始

- 平成 5年 11月 大森分団に消防ポンプ自動車(CD-I型)を配置
 11月 高野分団に消防ポンプ自動車(CD-I型)を配置
 6年 4月 条例改正により消防職員定数30名(実員30名)となる
 8月 日本消防協会から救急車(トヨタ 2B型)が寄贈された
 11月 コミュニティ消防センター(千寿ヶ原)落成 165.17m²
 12月 ジープ型指令車(トヨタ ランドクルーザー)を購入
 7年 3月 殉職職団員33回忌追悼式を営む
 4月 条例改正で消防団員定数を325名とする
 5月 新活動服を採用(職員)
 6月 消防団「団旗」を更新
 10月 下段分団の消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
 10月 五百石分団詰所落成(鉄骨造二階建) 138.15m²
 8年 2月 日本消防協会から「まとい」を受領
 3月 高規格救急自動車(トヨタ)を購入
 6月 消防広報車(スズキ エスクード)を更新
 10月 消防職員委員会が発足
 11月 立山分団千垣詰所(鉄骨造二階建)を新築 78.3m²
 11月 初の救急救命士が誕生
 9年 3月 立山町消防職員協議会結成
 4月 新制服を採用(職員)
 4月 3班3部制勤務を開始
 11月 消防庁舎の耐震調査診断を実施
 10年 3月 救助工作車(II型)を購入
 10月 五百石分団の消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
 11年 4月 第四代消防長 坂井繁好氏就任
 9月 立山分団の消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
 12月 第四代消防団長 舟橋幸甚氏就任
 12月 消防緊急通信指令台(I型)の更新
 12年 1月 防火衣(東消上下型)の更新
 4月 第九代消防署長 古田精一郎氏就任
 10月 第五代消防長 古田精一郎氏就任
 10月 庁舎耐震補強工事完成
 12月 立山地区芦峠寺集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
 13年 3月 山之内製薬(株)から高規格救急自動車(トヨタ)寄贈
 4月 第十代消防署長 城戸辰雄氏就任
 9月 消防活動用具乾燥設備を購入
 11月 水槽付消防ポンプ自動車(水II型)を購入
 12月 現場指揮車を購入(トヨタ)
 14年 1月 東谷地区目桑集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
 7月 立山町室堂救急隊分遣所開設(美女平分遣所廃止)
 12月 東谷分団詰所を移転(旧白岩生活改善センターを全面改築、車庫新築)189.9m²
 平成 15年 1月 立山地区千垣集落の小型動力ポンプ付積載車を更新
 4月 第十一代消防署長 山林信男氏就任
 4月 新活動服を採用(職員)

- 平成 15年 8月 環境 ISO 14001 取得(役場と協調)
- 12月 第五代消防団長 高平公嗣氏就任
- 12月 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(1,700ℓ水槽付き)を更新配備
- 16年 1月 新川地区女川新集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
- 3月 南部分遣所廃止、立山分団詰所となる
- 4月 第十二代消防署長 荒木重光氏就任
- 7月 新活動服を採用(団員)
- 10月 庁舎防水工事施工
- 17年 3月 救急自動車(トヨタ 2B型)を救急3号車として更新
- 4月 新盛夏服を採用(職員)
- 6月 組織機構改革(役場と協調)
- 9月 携帯電話による119番通報 直接受信方式となる
- 11月 上段地区新瀬戸集落の小型動力ポンプ付積載車(日産)を更新
- 18年 6月 新盛夏服を採用(団員)
- 19年 4月 第六代消防長 荒木重光氏就任
- 4月 消防職員定数30名(実員29名)となる
- 6月 薬剤追加講習に救急救命士を派遣養成(初)
- 10月 高平消防団長 消防大学校(消防団長科)入校
- 11月 泉集落に小型動力ポンプ置場新築
- 20年 4月 第十三代消防署長 薄田雅寛氏就任
- 9月 携帯型衛星電話機(イリジウム)導入
- 21年 2月 デジタル無線の県内共通波電波伝搬調査実施
- 2月 日本消防協会から指揮広報車(スバル レガシイ)寄贈
- 7月 庁舎空調工事第1期完了
- 22年 1月 東谷(目桑)地区の小型動力ポンプ付積載車車庫改築
- 3月 新川分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 4月 第十四代消防署長 佐伯秋雄氏就任
- 6月 消防署訓練用地として庁舎南側の貸借地1,120㎡を購入
- 8月 芦畷積載車を多機能型小型動力ポンプ積載車(国無償貸与)に更新
- 9月 庁舎空調工事第2期完了
- 12月 消防署訓練塔主塔一部改修工事完了
- 23年 1月 都市型ロープレスキュー資器材購入配備
- 2月 利田分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 2月 東部広域消防任意運営協議会枠組みから正式離脱
- 3月 東日本大震災発生(地震・津波・原発事故の複合災害)
- 3月 緊急消防援助隊富山県隊として参加(消火隊を宮城県名取市に派遣)
- 3月 富山県消防協会中新川支部の発展的解散
- 4月 第十五代消防署長 野村眞太郎氏就任
- 4月 富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣(隊員交替。3年任期)
- 4月 新規採用職員3名採用(実員32名)
- 7月 富山市と立山町との消防相互応援協定を締結
- 10月 舟橋村の救急業務委託を1年間延長する契約を締結
- 11月 全消防団員へ冬季活動用防寒衣を貸与

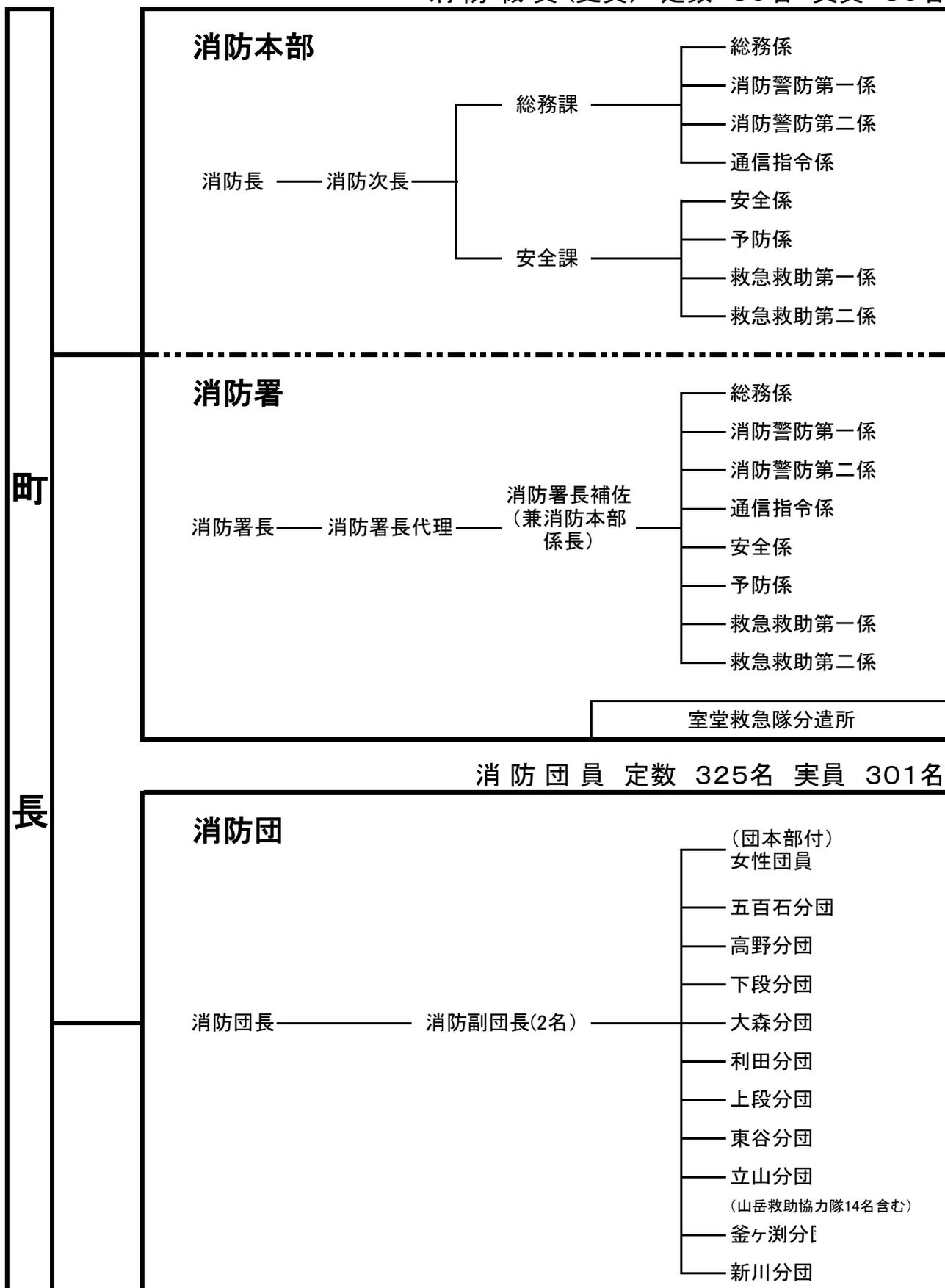
- 平成 23年 12月 五百石分団詰所を草野地内に移転新築
- 12月 消防補償組合へ追加負担金を納入(東日本大震災関連)
- 12月 上段分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 12月 消防広報車更新配備(日産 エクストレイル)
- 24年 1月 殉職職団員50回忌追悼式を営む
- 2月 災害対応型特殊救急自動車を購入(救急2 トヨタ 高規格)
- 4月 第十六代消防署長 古川信一氏就任
- 4月 新規採用職員1名採用(実員32名)
- 8月 消防団安全対策設備としてバルーン型夜間照明装備を各分団に配備
- 12月 釜ヶ淵分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 25年 3月 立山町消防署南側駐車場に地下埋設式40m³耐震性貯水槽設置
- 4月 第十七代消防署長 荻生義明氏就任
- 4月 新規採用職員2名採用(実員32名)
- 4月 消防資機材搬送車(トヨタ)を更新配備
- 9月 消防団員用カスタムベストを購入配備
- 9月 災害対策用エアータントを購入配備
- 10月 第七代消防長 荻生義明氏就任
- 10月 立山町消防庁舎大規模改修工事(通信指令室増築工事含む)開始
- 11月 東谷分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 11月 消防指令車(2号車)更新配備(日産 エクストレイル)
- 11月 アステラス製薬㈱から高規格救急自動車(トヨタ)寄贈
- 12月 災害対応特殊消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 26年 4月 荻生消防長再任用
- 4月 第十八代消防署長 金尾光保氏就任
- 4月 富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣(隊員交替。3年任期)
- 4月 新規採用職員1名採用(実員32名)
- 9月 高機能通信指令システム試験運用開始
- 9月 大森分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
- 11月 (財)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防自動車が寄贈され
東谷地区目桑集落に配備(車両更新)
- 12月 立山町消防庁舎大規模改修工事完了
- 12月 消防救急デジタル無線整備工事竣工、運用開始
- 27年 4月 荻生消防長再任用(2年目)
- 4月 第十九代消防署長 桂沢 誠氏就任
- 9月 高野分団消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配備
- 9月 消防団水防活動用ライフジャケットを購入配備
- 11月 雪崩災害対策用資器材を購入配備
- 28年 3月 消防庁舎太陽光発電パネル設置工事完了
- 3月 第五代消防団長 高平公嗣氏急逝。副団長 田村 保氏が団長代行就任
- 4月 第八代消防長 桂沢 誠氏就任(消防署長兼務)
- 4月 新規採用職員2名採用(実員33名)
- 4月 立山町婦人消防隊連合会を解散し、立山町女性防火クラブを設立

平成 28年	5月	第六代消防団長 田村 保氏就任
	8月	高野分団詰所を江崎地内に移転新築
	11月	下段分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
	11月	大森分団詰所を西大森地内に移転新築
	12月	日本消防協会から防災広報車(日産 バネット)寄贈
平成 29年	1月	資機材搬送車(トヨタ)を更新配備
	3月	利田分団詰所を利田地内に移転新築
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣(隊員交替。令和2年度まで4年間)
	4月	職員定数条例一部改正(消防機関の職員32人→消防長の消防部局32人)
	6月	初の女性消防団員が誕生
	7月	遭難対策用無線機を購入配備
	8月	高野分団に小型動力ポンプ配備
30年	4月	桂沢消防長再任用
	4月	第二十代消防署長 金山 彰氏就任
	4月	新規職員3名採用、役場総務課へ1名異動(実員34名)
	7月	消防署訓練塔ホース吊り機改修
	11月	立山分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
31年	3月	釜ヶ淵分団詰所を道源寺地内に移転新築
(H31とR元は同年)	4月	桂沢消防長再任用(2年目)
令和 元年	7月	機能別消防団員初採用(4名)
	10月	五百石分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
	11月	高規格救急自動車を更新配備(旧2B型救急自動車を更新)
2年	2月	救助資器材搭載型消防ポンプ車(消防庁無償貸付車両)、上段分団(新瀬戸)に配備
	4月	第九代消防長 金山 彰氏就任(消防署長兼務)
	4月	新規職員1名採用(実員34名)
	4月	第七代消防団長 亀山 彰氏就任
	11月	消防庁舎屋上防水補修工事
3年	2月	多機能型消防ポンプ自動車(13m塔体付き車両)新規配備
	3月	上段分団詰所を福田地内に移転新築
	4月	金山消防長再任用
	4月	第二十一代消防署長 西田 治氏就任
	4月	新規職員1名採用。役場総務課へ1名異動(実員34名)
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣(隊員交替)
	7月	訓練塔副塔昇降用階段設置工事
	9月	東谷分団詰所外壁補修工事
	11月	亀山消防団長 消防大学校(消防団長科)入校
	11月	富山市と消防指令業務共同運用に関する基本合意締結
	12月	職員定数条例一部改正 消防職員定数36名(消防長の消防部局36名)
4年	1月	現場指揮車更新配備(石油貯蔵立地対策等交付金活用)

立山町消防組織図

(令和4年4月1日現在)

消防職員(吏員) 定数 36名 実員 36名



◇消防施設の現況

(令和4年4月1日現在)

施設名	所在地	電話番号	敷地面積 (㎡)	建築延面積 (㎡)	構造	竣工年月日	建築費 (千円)	備考	
立山町消防本部 (立山町消防署)	米沢36	463-0005 FAX 463-1610	4,722.39	922.25	鉄筋コンクリート造2階建	S.48.6.7	消防庁舎(総工費)	50,156	
					鉄骨造折版葺	S.56.9.30	車庫(増築)	11,950	
						S.61.3.28	通信指令室(増築)	3,130	
						H.12.10.27	消防庁舎耐震補強工事	13,230	
						H.26.3.24	通信指令室(増築)	31,433	
						H.26.3.24	緊急避難所機能整備工事	26,072	
訓練塔	米沢36	—	47.44	主塔168.00 副塔 31.20	鉄骨造5階建 17M 鉄骨造平屋建 7M	H.4.11.27	33,887		
室堂救急隊分遣所	芦峠寺ブナ坂	463-5519	室堂 立山センター内に季節開所(例年7月~10月)						
上段分団詰所	福田622	463-0424	644.73	152.37	木造平屋建鋼板葺	R.3.3.12	総工事費 64,905		
釜ヶ淵分団詰所	道源寺849	463-2894	599.91	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.31.3.8	総工事費 54,649		
利田分団詰所	利田1081-2	463-3229	507.00	146.33	木造平屋建鋼板葺	H.29.3.15	総工事費 46,856		
大森分団詰所	東大森420番2	463-2464	856.19	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.28.10.31	総工事費 49,934		
高野分団詰所	江崎9番1	462-2170	497.04	144.19	木造平屋建鋼板葺	H.28.8.31	総工事費 49,088		
五百石分団詰所	草野95番1	463-5811	231.68	153.05	木造平屋建鋼板葺	H.23.11.30	総工事費 25,049		
東谷分団詰所	白岩12	463-2440	542.30	153.90 車庫36.0(別棟)	補強コンクリートブロック造平屋建 鉄骨造平屋建折版葺	H.14.9.30	総工事費 19,267	全面改築 車庫新築	
新川分団詰所	浦田408-4	464-1054	807.77	107.81	鉄骨造平屋建折版葺	S.61.11.20	総工事費 14,580		
下段分団詰所	榎43	463-3251	1,537.18 (公民館と共同)	80.58	鉄筋コンクリート造平屋建 (公民館併設)	S.59.12.20	総工事費 9,999		
立山分団詰所	宮路10-2	483-0300	510.00	143.52	鉄骨造平屋建折版葺	S.56.11.9	総工事費 21,298		
立山分団芦峠詰所	芦峠寺10-1	—	138.40 (借地)	98.85	鉄骨造一部2階建カラ 鉄板瓦棒葺	H.4.12.3	総工事費 16,304		
立山分団千垣詰所	千垣311-1	—	78.61 (借地)	78.30	鉄骨造2階建折版葺	H.8.11.6	総工事費 12,051		
千寿ヶ原コミュニティー 消防センター	芦峠寺ブナ坂50-3	482-1010	291.10	165.17	鉄筋コンクリート造平屋建	H.6.11.25	総工事費 30,174		

◇消防職員の定数・実員及び配置状況

	定 数	実 員
消防職員	36	36

消防職員1名に対する面積 8.54 km²

〃 人口 695 人

〃 世帯数 264 世帯

(令和4年4月1日現在)

所 属	階 級	消 防	消 防	消 防	消 防	消 防	消防士	計
		司令長	司 令	司令補	士 長	副士長		
消 防 本 部 ・ 署	消 防 長	1						1
	消防次長・総務課長 (消防署長)		1					1
	安 全 課 長 (消防署長代理)		1					1
	安 全 課 長 補 佐 (消防署長代理)		1					1
	総 務 係		1	1	1		2	5
	消 防 警 防 第 一 係		1		1		1	3
	消 防 警 防 第 二 係		1	1	1			3
	通 信 指 令 係		1	1	1		1	4
	予 防 係		1	1	2		2	6
	安 全 係		1		2			3
	救 急 救 助 第 一 係		1		1		1	3
	救 急 救 助 第 二 係		1	1	1		1	4
計		1	11	5	10		8	35
富山県防災航空センター(派遣)					1			1

◇消防機械配置状況

(令和4年4月1日現在)

車種別		ポンプ車		救急車及びその他の車						
		普通消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車 (災害対応)	救急車(高規格)	救助工作車(Ⅱ型)	指令車	現場指揮車	広報車	小型動力ポンプ付積載車	資機材搬送車
所属別										
常備	消防本部・署	2	1	3	1	1	1	2	1	1
小計		2	1	3	1	1	1	2	1	1
消防団	五百石分団	1								
	高野分団	1								
	下段分団	1								
	大森分団	1								
	利田分団	1								
	上段分団	2								
	東谷分団	1							1	
	立山分団	1							2	
	釜ヶ淵分団	1								
	新川分団	1							1	
小計		11							4	
合計		13	1	3	1	1	1	2	5	1

◇消防車両一覧表

(令和4年4月1日現在)

項目 車 両	車 両 メ ー カ	登 録 年 月 日	艀装、種別、級別等	配置場所
ポ ン プ 車	日 野	H 25. 12. 9	モリタ A-2 600ℓ水槽	消 防 本 部 (消 防 署)
ポ ン プ 車	日 野	R 3. 2. 12	モリタ A-2 900ℓ水槽 MVF	
化 学 車	三 菱 ふ そ う	H 15. 12. 3	モリタ A-2 1700ℓ水槽	
救 助 工 作 車	日 野	H 10. 3. 5	モリタ II 型	
救 急 車	ト ヨ タ	H 25. 11. 20	高規格	
救 急 車	ト ヨ タ	H 24. 2. 17	高規格	
救 急 車	ト ヨ タ	R 1. 11. 19	高規格	
指 令 車	日 産	H 25. 11. 14	ステーションワゴン	
広 報 車	日 産	H 23. 12. 16	ステーションワゴン	
広 報 車	日 産	H 28. 12. 1	ミニバン(非緊急車両)	
現 場 指 揮 車	日 産	R 4. 1. 24	1BOX	
資 機 材 搬 送 車	日 野	H 29. 1. 31	2tトラック	
千 寿 ヶ 原 積 載 車	ダ イ ハ ツ	H 13. 12. 17	千寿ヶ原地区に貸与	本部管理
五 百 石 分 団 車	日 野	R 1. 10. 16	モリタ A-2	五 百 石
立 山 分 団 車	い す ゞ	H 30. 11. 12	モリタ A-2	立 山
下 段 分 団 車	日 野	H 28. 11. 18	モリタ A-2	下 段
高 野 分 団 車	い す ゞ	H 27. 9. 28	モリタ A-2	高 野
大 森 分 団 車	日 野	H 26. 9. 12	モリタ A-2	大 森
東 谷 分 団 車	日 野	H 25. 10. 21	モリタ A-2	東 谷
釜 ヶ 淵 分 団 車	い す ゞ	H 24. 11. 19	モリタ A-2	釜 ヶ 淵
上 段 分 団 車	い す ゞ	H 23. 11. 21	モリタ A-2	上 段
利 田 分 団 車	日 野	H 23. 2. 10	モリタ A-2	利 田
新 川 分 団 車	日 野	H 22. 2. 12	モリタ A-2	新 川
新 瀬 戸 ポ ン プ 車	い す ゞ	R 2. 2. 3	モリタ 救助資機材搭載型 国無償貸与車両	上 段 新 瀬 戸
目 桑 積 載 車	ス ズ キ	H 26. 11. 19	可搬式ポンプ積載車	目 桑
女 川 新 積 載 車	ダ イ ハ ツ	H 15. 12. 17	可搬式ポンプ積載車	女 川 新
千 垣 積 載 車	三 菱	H 14. 12. 25	可搬式ポンプ積載車	千 垣
芦 峯 積 載 車	い す ゞ	H 22. 7. 22	シバウラ 救助資機材搭載型 国無償貸与車両	芦 峯

◇消防水利の現況

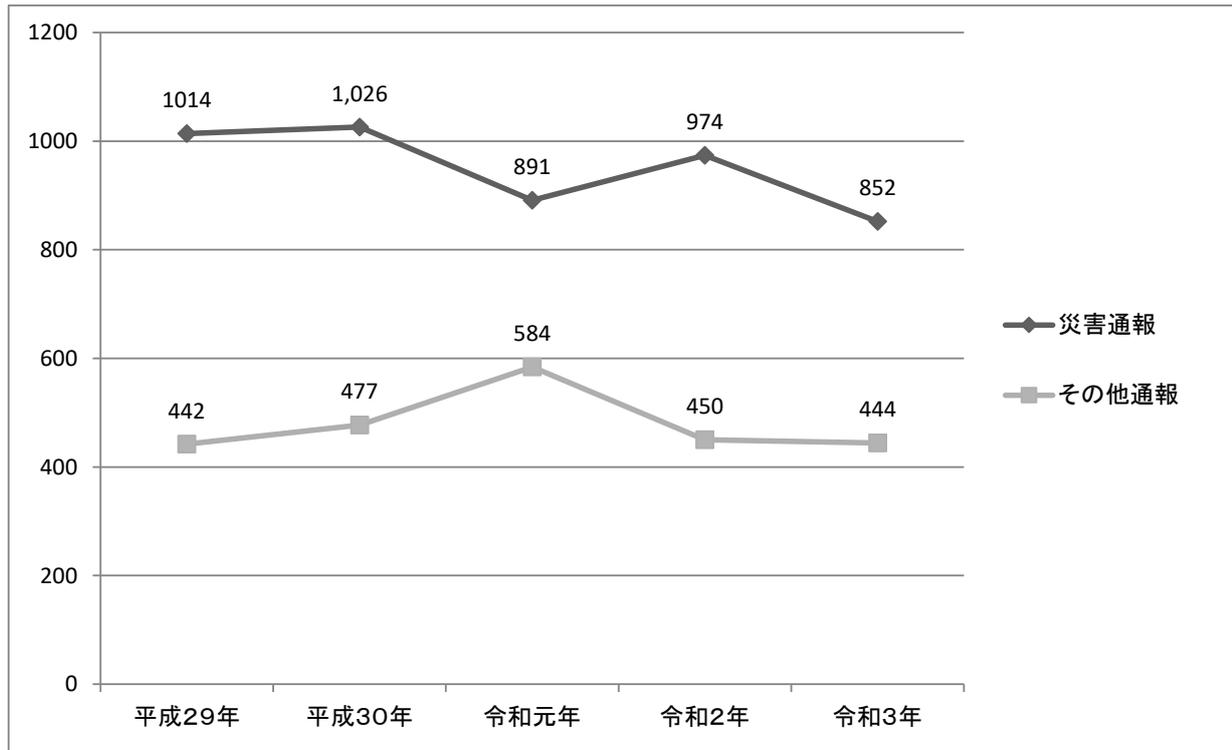
(令和4年4月1日現在)

現 有 消 防 水 利									
種別	消 火 栓			防 火 水 槽				プ ル	計
	公 設		私 設	公 設		私 設			
	地 上 式	地 下 式		有蓋	無蓋	有蓋	無蓋		
地区									
五 百 石		108	1	8				1	118
高 野		62		3		1		1	67
下 段		71		5					76
大 森		56		8					64
利 田		60	1	2		3		1	67
上 段	2	43		7		2			54
東 谷	1	25		7	8				41
立 山	39	88		6	4	1			138
釜 ヶ 淵	1	28		3				1	33
新 川		82	5	5	1			1	94
計	43	623	7	53	13	8		5	752
				66		8			

◇年別通報受信状況

		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	計
災害通報	火災通報	21	9	4	8	8	50
	救急救助通報	991	1,014	885	965	840	4,695
	その他災害通報	2	3	2	1	4	12
災害通報小計		1,014	1,026	891	974	852	4,757
その他の通報	訓練	149	158	164	183	162	816
	試験	180	204	303	175	178	1,040
	いたづら	1	9	6	2	2	20
	間違い	41	32	43	43	43	202
	問合わせ	71	74	68	47	59	319
その他の通報小計		442	477	584	450	444	2,397
合計		1,456	1,503	1,475	1,424	1,296	7,154

※「その他災害通報」は、火災・救急救助以外の災害通報となります。



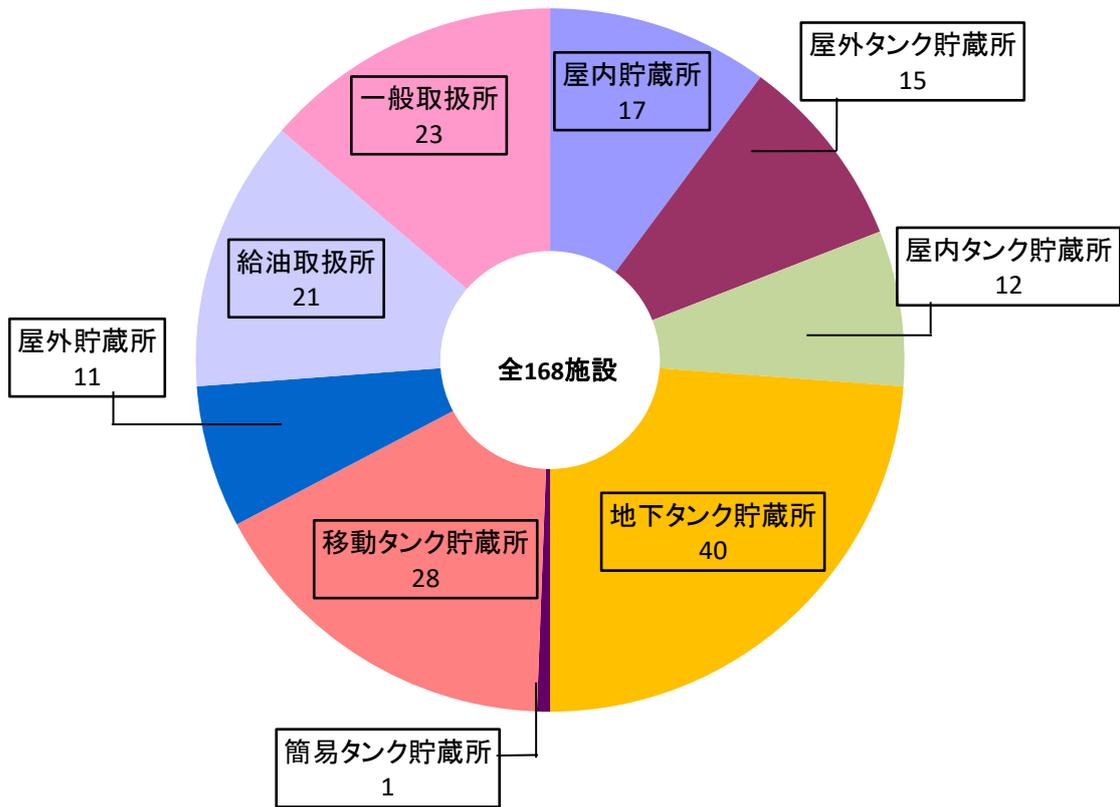
◇防火対象物状況

(令和4年4月1日現在)

用途別		消防用設備等 必要対象物	防火管理者 必要対象物
(1)	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	
	ロ	公会堂又は集会場	16
(2)	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	1
	ロ	遊技場又はダンスホール	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等	
	ニ	カラオケボックス等	
(3)	イ	待合、料理店等	1
	ロ	飲食店	44
(4)		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	34
(5)	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	45
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	39
(6)	イ	病院、診療所、助産所	9
	ロ	特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	18
	ハ	老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉 センター	23
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	
(7)		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	16
(8)		図書館、博物館、美術館等	6
(9)	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	
(10)		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	5
(11)		神社、寺院、教会等	9
(12)	イ	工場又は作業場	195
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	
(13)	イ	自動車車庫又は駐車場	16
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	
(14)		倉庫	101
(15)		前各項に該当しない事業場	119
(16)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	17
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	8
(16の2)		地下街	
(16の3)		地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと 地下道とを合わせた物	
(17)		重要文化財、重要美術品建造物等	5
(18)		延長≥50mのアーケード	
(19)		市町村長が指定する山林	
(20)		総務省令(規5-10)で定める舟車	
計			728
			185

◇危険物施設数

令和4年4月1日現在



◇火災予防条例による届出状況

種別 年度	発電設備設置届	変電設備設置届	蓄電設備設置届	炉・厨房設備設置届	ボイラー設置届	給湯湯沸設備設置届出	サウナ設置届出	少量危険物貯蔵取扱届	指定可燃物貯蔵取扱届
	令和3年度	3	10	6	3	2	1	1	11

◇危険物製造所等倍数別・類別状況

(令和4年4月1日現在)

製造所等の別		貯 蔵 所								取 扱 所				合 計
		屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	小 計	給 油	販 売	一 般	小 計	
倍 数 別	5倍以下	7	5	3	25	1	26	6	73	4		9	13	86
	5倍を超え 10倍以下	5	2	6	7				20	1		11	12	32
	10倍を超え 50倍以下	4	4	3	7		1	5	24	5		3	8	32
	50倍を超え 100倍以下	1	4		1		1		7	4			4	11
	100倍を超え 150倍以下								0	4			4	4
	150倍を超え 200倍以下								0				0	0
	200倍を超え 1000倍以下								0	3			3	3
	1000倍を超えるもの								0				0	0
	合 計	17	15	12	40	1	28	11	124	21	0	23	44	168
類 別	第 1 類								0				0	0
	第 2 類								0				0	0
	第 3 類								0				0	0
	第 4 類	16	15	12	40	1	26	11	121	21		23	44	165
	第 5 類								0				0	0
	第 6 類						2		2				0	2
	混 在	1							1				0	1
	合 計	17	15	12	40	1	28	11	124	21	0	23	44	168

◇危険物製造所等の申請処理数

(令和4年4月1日) (単位:件)

製造所等の別 区分		貯 蔵 所						取 扱 所			合 計	前 年	
		屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売			一 般
許 可	設 置						1		1			2	1
	変 更				1				2		1	4	1
完 成 検 査	設 置						1					1	1
	変 更				1				2		1	4	1
完 成 検 査 前 検 査	水 張										1	1	6
	水 圧											0	0
承 認 申 請	仮 使 用								2		1	3	0
	仮 貯 蔵	1										1	1
	仮 取 扱		1								3	4	3
廃 止 届					2		1				1	4	6

火 災 概 況

令和3年における火災発生件数は6件で、前年と同件数となりました。

火災種別は、建物火災が3件、車両火災が1件、林野火災が1件、その他火災が1件であり、損害額合計は5,032千円で、前年に比べ3,317千円の増加となっています。焼損面積は6,562㎡、焼損表面積は25.8㎡となっています。火災による負傷者は0名、死者は0名でした。

◇令和3年火災発生状況総括表

件 数		1	2	3	4	5	6
区 分							
火 災 種 別		建物	林野	建物	その他	車両	建物
出 火 月 日		1月3日(水)	4月3日(土)	4月25日(日)	9月12日(日)	11月8日(月)	12月31日(金)
出 火 時 刻 (推 定)		23時00分	9時00分	15時24分	20時33分	20時49分	8時42分
天 候		曇	晴	曇	曇	晴	雪
湿 度(%)		79.1	43	72.5	85.1	45.8	98
風 向		南西	北北西	北	南	南西	不明
風 速(m/s)		2.2	3.1	5.3	2.8	2.8	不明
気 温(℃)		2.6	22	13.3	21.2	18.9	-1.7
出 火 地 区		釜ヶ淵	立山	立山	利田	東谷	五百石
出 火 原 因 (推 定 含 む)		コンロの 切り忘れ	野火拡大	野火の飛火	不明 (放火の疑い)	異常過熱による 藁への着火	巻きストーブ 取り扱い不注意
焼 損 面 積(㎡)		—	6,400	25.8(表)	—	—	162.2
焼 損 棟 数	全 焼						1
	半 焼						
	部 分 焼			1			
	ぼ や	1			1		
	計	1		1	1		
罹 災 世 帯 数	全 損						1
	半 損						
	小 損	1					
罹 災 人 員		2					2
死 傷 者	死 者						
	負 傷 者						
損 害 額 (千 円)	建 物						3,308
	収 容 物			122			1,300
	そ の 他		71			231	
	計		71	122	0	231	4,608
住 宅 用 火 災 警 報 器 設 置 状 況		有		無			無

(表)・・・表面積

◇月別火災発生状況

内 訳 月 別	出 火 件 数					焼 損 棟 数					焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)
	計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や		
1	1	1				1				1		
2												
3												
4	2	1	1			1			1		6400 25.8(表)	193
5												
6												
7												
8												
9	1				1						—	—
10												
11	1			1							—	231
12	1	1				1	1				162.2	4,608
合 計	6	3		1		3	1		1	1		5,032

(表)・・・表面積

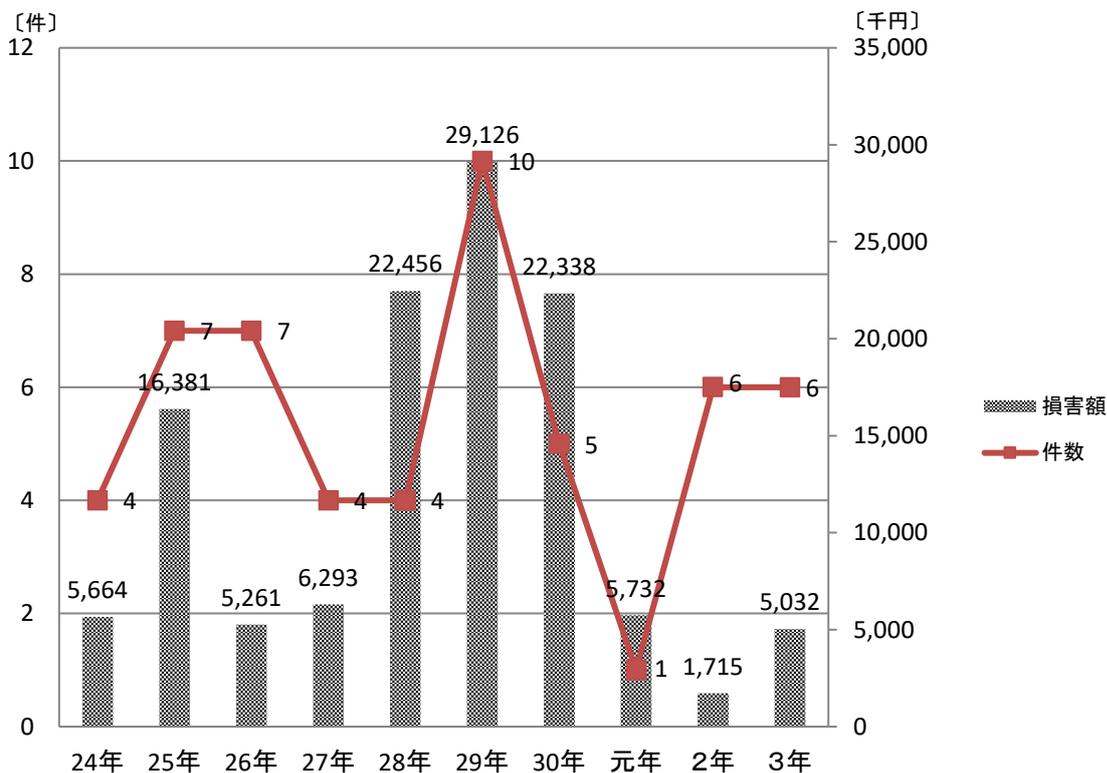
◇過去10年間の地区別件数

年 地 区	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	合 計
五百石		3	1	1			1			1	7
高 野		3					1		1		5
上 段	1		1		1						3
東 谷										1	
立 山	2				2	4	1	1	1	2	13
釜ヶ淵		1	1			3				1	6
下 段						1	1				2
大 森	1			1	1						3
利 田			1			2	1		2	1	7
新 川				2					2		4
合 計	4	7	4	4	4	10	5	1	6	6	51

◇過去10年間の火災発生状況

区分 年	件数	焼 損 面 積				損 害 額(千円)
		建 物(m ²)	表面積	林野・その他	車両	
平成 24	4	64	16		1台	5,664
平成 25	7	899	2			16,381
平成 26	4	159			5台	5,261
平成 27	4	264		1基	2台	6,293
平成 28	4	801		41a		22,456
平成 29	10	334	38		3台	29,126
平成 30	5	780	4			22,338
令和 元	1	214	2			5,732
令和 2	6	0.49	0.36		4台	1,715
令和 3	6	162.20	25.8	6400	1台	5,032
平均	5.1					

◇過去10年間の火災発生件数と損害額



救 急 概 況

令和3年中の救急出動件数(立山黒部アルペンルート、北陸自動車道を含む)は、1,055件で前年比25件増加、搬送人員は、980人(男514人、女466人)で前年比21人増加となりました。

事故種別では、急病事故697件(66.1%)、一般負傷事故174件(16.5%)、転院搬送80件(7.6%)交通事故60件(5.7%)、その他の事故種別が44件(4.1%)となりました。

立山黒部アルペンルートの出動件数は、32件で前年比12件の増加となりました。

北陸自動車道の出動件数は、2件で前年と同数となりました。

○事故種別出動件数・搬送人員状況

単位： 上段：件
下段：人

事故種別 区分	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
											転 院	医 師	資 機 材	そ の 他	
出 動 件 数	1		3	60	16	2	174	1	8	697	80			13	1,055
搬 送 人 員			1	57	16	2	160	1	6	658	79				980

○月別・事故種別救急活動状況

単位： 上段：件
下段：人

月別	事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
												転院	医師	資機材	その他	
1	出動件数				2	1		17			71	8			1	100
	搬送人員				2	1		17			69	8				97
2	出動件数				2			12		1	46	8			3	72
	搬送人員				1			12		1	46	8				68
3	出動件数				10	2		14			58	6			1	91
	搬送人員				10	2		10			53	6				81
4	出動件数			1	4	2		6		2	49	3			2	69
	搬送人員				3	2		5		1	48	3				62
5	出動件数				6			5		2	63	3				79
	搬送人員				5			5		1	59	3				73
6	出動件数			1	5	3	1	11			51	8				80
	搬送人員			1	4	3	1	11			49	8				77
7	出動件数				7	2		22		1	62	5			1	100
	搬送人員				7	2		19		1	59	4				92
8	出動件数				5	2		12		1	68	5			1	94
	搬送人員				6	2		10		1	65	5				89
9	出動件数				5	1	1	21	1	1	71	8				109
	搬送人員				5	1	1	19	1	1	62	8				98
10	出動件数					2		21			48	8				79
	搬送人員					2		20			44	8				74
11	出動件数				8			13			51	11			1	84
	搬送人員				7			12			46	11				76
12	出動件数	1		1	6	1		20			59	7			3	98
	搬送人員				7	1		20			58	7				93
計	出動件数	1		3	60	16	2	174	1	8	697	80			13	1,055
	搬送人員			1	57	16	2	160	1	6	658	79				980

救 助 ・ 捜 索 概 況

令和3年中の救助・捜索出動件数は14件で、前年の14件と同数となりました。
捜索については2件です。

○令和3年救助・捜索出動及び活動状況

単位：件、人

区 分		月												計		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
救 助 件 数		1			5	2		1	1	2					12	
捜 索 件 数			1			1									2	
救 助 ・ 捜 索 人 員		1	1		2	2		2	1	2					11	
事 故 種 別 出 動 件 数	火 災	建 物														
		建 物 以 外														
	交 通 事 故					3	2		1		1				7	
	水 難 事 故					1									1	
	風 水 害 等 自 然 災 害															
	機 械 に よ る 事 故															
	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故															
	爆 発 事 故															
	建 物 等 に よ る 事 故		1													1
	そ の 他 の 事 故					1				1	1					3
	捜 索			1			1									2
合 計		1	1		5	3		1	1	2					14	

○過去3年間の救助・捜索出動及び活動状況

単位：件、人

区 分		令和元年	令和2年	令和3年
救 助 件 数		16	12	12
捜 索 件 数		1	2	2
救 助 ・ 捜 索 人 員		8	9	11

○富山県消防防災ヘリコプター要請状況

単位：件、人

区 分		令和3年
救 助 要 請 件 数		1
救 急 要 請 件 数		1
救 助 人 員		2

※富山県には、富山県消防防災ヘリコプター「とやま」の他に富山県ドクターヘリや富山県警察航空機「つるぎ」があり事故内容に応じて連携し、活動することがあります。

消 防 年 報

令和4年4月発行

立 山 町 消 防 本 部

〒930-3265

富山県中新川郡立山町米沢36

TEL (076) 463-0005

FAX (076) 463-1610

Email syoubou@town.tateyama.lg.jp